



【血乳にプロジェステロン製剤】

はじめに

血乳とは、乳房炎によるもの、外傷や打撲によるもの、そして分娩後の生理的なものに大きく分けられます。生理的な血乳について今回は考えたいと思います。

分娩後の生理的血乳は、急速に乳汁合成そして泌乳が開始されることに伴い、乳腺組織へ大量の血液が流入するため、乳腺局所の毛細血管が拡張、破綻し、発症すると言われています。

分娩前後の牛は“活性酸素”といわれる物質が大量に産生され、免疫機能の一部として作用(細菌を酸化させて撃退)する一方で、組織を傷害する性質があり、増えすぎると自分の身体の組織まで酸化させてダメージを与えるため、乳房などの毛細血管が傷害されます。

血乳は出荷できない牛乳、農場における経済的損失は大きく、厄介なものです。

プロジェステロンとエストロジェン

卵巣から産生されるホルモンとしてプロジェステロンとエストロジェンがあります。プロジェステロンは主に黄体から産生され、妊娠を維持します。また、エストロジェンは主に卵胞から産生され、発情をおこさせるホルモンの総称であり、血管透過性を亢進します。この2つのホルモンのバランスがととても重要であります。

さきほどお話ししました、活性酸素はヒトの黄体細胞においてプロジェステロン産生を阻害するとされています。よって、エストロジェン>プロジェステロンの濃度関係になり、血管透過性が亢進します。また、分娩による泌乳開始によって、血流量が増大することでまた、血管透過性が亢進します。よって血乳になりやすい条件が揃います。

プロジェステロン製剤

上記の要因により血乳になることから、プロジェステロン優位にする、さらに乳量の一時的な減少を引き起こすことで血管透過性の亢進を抑制させ、血乳が治癒すると考え、プロジェステロン製剤の投与を治療に用います。



プロジェステロン製剤

プロジェステロン製剤の治療としては、

- ① 持続性黄体ホルモン製剤(ルテウムデポー:ヒドロキシプロゲステロンカプロン酸エステル 100mg 及びプロゲステロン 10mg)の単回投与
- ② 腔内留置型 プロジェステロン製剤(CIDR:日局プロゲステロン 1.9g)の挿入

以上があげられます。

バソラミンとの比較

抗プラスミン製剤であるバソラミンを3日間投与するという方法が一般的であり、やられている方も多いかと思えます。

しかし、ある研究では3日間投与で41.7%が治癒せず、治癒に約12日間かかったという報告があり、一方で、CIDRの挿入により約3.7日で治癒、デポー注射により約4.2日で治癒したという報告があります。

CIDRは産後の症例では悪露の影響を受けて吸収が阻害される、また、デポー単回投与の方が安価であることから、デポー単回投与が有用なのではないでしょうか。

さいごに

あまり血乳は診療で出会うことがないのですが、もしこういう治療をやっている良い感触があるというのであれば教えていただきたいです。また、実際にCIDRやデポー注射を行っている方の意見もあれば教えてください。(そんなこと既に知っている、効果がいまいちだ、という意見もあれば教えてください。)

今年は暑かったり、湿度の高い日が多かったりと気温差で疲れが増しますが、頑張りましょう。

小方可奈江



Total Herd Management Service